

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL) 6765-8904
(FAX) 6765-8905

第29回 ヒューマンウェーブ集会に 500人が参加

晴天に恵まれた12月9日、大阪城公園教育塔前広場で、第29回ヒューマンウェーブ集会が開催されました。障害当事者の青年たちが、オープニングをかきり、「そんな町を」「手のひらを太陽に」「陽気に生きようこの人生をさ」の3曲を曲に合わせて踊り、会場の参加者といっしょに歌って集会在スタートしました。集会には障害当事者・家族・関係者が500人参加しました。

憲法が守り生かされる政治を

基調報告をおこなった大障教の西面副委員長(大阪の障害児教育をよくする会事務局長)は、安倍政権が10月から消費税増税を強行したが、消費税が導入されて30年間、社会保障の充実には使われず、大企業や富裕層の優遇がすすめられていることを告発し、消費税に頼らず、大企業や富裕層に応分の負担を求めようと呼びかけました。また、安倍首相が執念を

燃やしている改憲の本質について、「9条に自衛隊を明記することは、海外での武力行使に道を開くもので断じて許すことはできない」と述べ、武力ではなく、対話によって平和な社会を築こうと語りました。

教育分野については、「大阪府教育委員会は、府立支援学校の知的障害児童生徒数が、今後10年間に現在より1400人増加するとの推計を発表したが、その対応策として公表した『基本方針』では到底対応できない」と訴えました。

基調報告する西面副委員長

会場からのリレートークに大きな拍手

リレートークでは「新生児聴覚スクリーニング検査を全市町村で実施し、早期に適切な相談支援を」「大阪聴力障害者協会」「65歳以上の障害者に介護保険ではなく障害福祉サービスの継続を」「大阪肢体障害者団体連絡協議会」「きょうされん署名を大きく広げて障害者の権利保障をすすめよう」「きょうされん大阪支部」「自分で考え自分で決めることを大事にした学びの場・専攻科が必要(学びの場)」「安全安心の学校生活を送れるよう、教室転用や校区割による対応ではなく支援学校の抜本的増設を」「大阪の障害児教育をよくする会」「報酬改定で放課後等デイの運営が厳しくなった。子どもの障害区分の撤廃を」「大阪障害児放課後ネットワーク」など、それぞれの立場から切実な要求が語られました。

その後も「ガイドの時間を増やして」「給料を上げて」「職員さんを増やしてください」「精神手帳で鉄道の割引をしてほしい」など、障害当事者のひと言発言が続き、会場は大いに盛り上がりました。

直接請願行動に各団体から

15人が参加、1831筆の請願書を提出



代表による提出行動

集会と並行して行われた「ヒューマンウェーブ個人請願」提出行動には各団体の代表15人が参加しました。提出行動の参加者は府庁別館内に移動し、ひとりずつ「カジノ誘致をやめて、福祉・医療・教育に関わる施策を充実してください」との表題の請願書を、大阪府の担当者に手渡しました。参加者からは、「僕たちが一般企業で働きやすい環境をつくってください」「シヨートステイの連泊をできるようにしてください」「重度障害者の入所施設などのくらしの場を整備してほしい」「カジノは辞めてわたしたちの福祉にお金を回してください」など切実な声が出されました。

みんなの願いをドラムのリズムにのせて

集会後参加者は、「みんなのくらしと権利を守れ!」「私のことは私が決める!」「カジノはやめて福祉にまわせ!」など、みんなの願いをドラムのリズムに合わせて府民に訴えながら、府庁周辺をパレードしました。コールする人の「支援学校増やせ!」の声に続いて、参加者が「そうや!」と声をあげるなど、掛け合いを織り交ぜた楽しいパレードとなりました。



2020年最初の「大障教ニュース」みなさん、今年もよろしくお願ひします。

21世紀になり20年が経過した。時の流れは速く、ミレニアムと言っていたのが最近のようだ。2000年で思い出されるのが、私が小学生の時に流行した「ノストラダムスの大予言」。当時10歳だった私は1999年に地球が減びると心配し、「地球滅亡」の時に35歳。そこまで生きられたらいいかと考えていた。小学生の25年は「途方もない」時間だったのだろう。今から思えば「なんとまあ」という感じだ。25年後、私は80歳。この世に存在しているかあやしい。

命は必ず死を迎える。地球には数多くの種が存在するが、毎日、100種以上が絶滅している。そして、近年のそれは格段にスピードを上げているそうだ。

北海道で通年観察できるタンチョウは、江戸時代には本州にも生息していた。絶滅したと思われるタンチョウは、保護活動でそれを回避した。冬は、タンチョウにとって恋の季節。「白銀の世界」での求愛ダンスはよく知られている。タンチョウは湿原で子育てをする。この100年で、西日本の湿原はほぼ消滅し、日本の湿原の80%以上をしめる北海道のそれも大幅に減少した。

「生命ははぐくむ地球とその自然を大切にしたい」と締めくくるともりだったが、トランプ政権によるイラク領内でのイラン司令官殺害の軍事行動を伝える報道があった。

軍事行動では、何も解決しない。アメリカは「先制攻撃戦略」を改めるべきだ。そして、日本は憲法9条の国として、平和的解決のイニシアチブをとるべきだ。(久)

教育全国署名もがんばっています！

五団体教育 全国署名

16人で1110筆

大障教からも5人が参加



伝・署名行動をおこないました。短い時間で110筆を集めることができました。

日曜日の朝の時間帯にも関わらず、ビラやのぼりを見て足を止めて訴えをきいてくれた方々や色とりどりの風船を見て楽しそうだなあと近づいてきてくれた親子連れなど、たくさんの方が署名をしてくれました。中でも、高校生のグループが、訴えを聞いて「高校がつぶされたら困る」「署名しよう」と、友だち全員でにぎやかに署名にとりくむ姿はとても印象



的でした。顔を見て対話する中でいろいろなお意見や温かい励ましを受けて、宣伝・署名行動の大切さを実感しました。

大障教では、現在21分会1839筆を集約しています。各分会で引き続き積極的にとりくんでいただきますようお願いいたします。

11月3日、「大阪の障害児教育をよくする会」「大阪府立高校30人学級をすすめる会」「大阪市立高校30人学級をすすめる会」「大阪私学助成をすすめる会」「子どもと教育・文化を守る大阪府民会議」の5団体による「教育全国署名」京橋駅コンコースに各団体から集まった16人(大障教から5人)で「支援学校の増設を!」「少人数学級実現を!」「特別教室にエアコン設置を!」「高校つぶし反対!」などと訴え、宣



やっぱり「教研」！！

全国学習交流集会 in 兵庫の次は、
大阪で学ぼう！

教育のつどい大阪2019

【問題別分科会】

日時：2020年1月19日(日)

AM9:30~(開場9:00)

場所：私立大阪暁光高校

13の分科会の1つに障害児教育分科会があります。

4つの分散会で大阪の支援学級や支援学校の実践報告に学べます。

府立支援学校からは4人のレポーター(①小学部・知的②③④高等部・知的)が報告されます。ぜひみんなで学び合いましょう!(詳細は「大阪教育号外(2019・12・4)」冊子参照)

【教科別分科会】

日時：2020年1月25日(土)

AM9:30~(開場9:00)

場所：羽曳野市立古市小学校

12の教科等の分科会があります。

※お問い合わせは大障教書記局まで

Hand in Hand

「おかえり」から始まる寄宿舍

寄宿舍ってどんなところ？

第4回

中央聴覚支援学校(旧大阪市立聾学校)は、1900年創立の大阪では最も歴史ある支援学校です。

来年度は120周年をむかえます。

寄宿舍は、戦中の香里校舎(寝屋川)への疎開の時期から戦後のしばらくの間、閉舎していましたが1957年から再開しています。

耳の聴こえない子どもたち、聴こえにくい子どもたちの就学機会の保障、通学保障、安心の生活、ピアモデルとしての集団保障など様々な役割を果たしてきました。

さて、120年前に五代五兵衛翁が私財を投じ、浄久寺本堂を仮教場として私立大阪盲聾院を設立した時から先生も生徒と寝食を共にしています。安心できる生活を基盤に学習を保障したのだと思います。また、子どもたちの「実際」から大人が学ぶことは、今も多いと思います。

寄宿舍の役割を狭くとらえる考え方もありますが、目の前の子どもたちにとっての最大の利益のため、寄宿舍が最大限に活用されるよう現場から発信していきたいと思います。

